

平成30年度美馬市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成31年2月15日（金） 午後1時から午後1時50分まで
- 2 場 所 美馬市役所南館 3階306会議室
- 3 出席者 美馬市長 藤田 元治
(構成員) 〈教育委員会〉
教育長 村岡 直美
教育長職務代理者 近藤 卓
委員 上田 加代
委員 近藤 陽子
- (構成員以外の出席者)
大泉副教育長
西野教育委員会事務局次長 (地域学習推進課長事務取扱)
篠原教育委員会事務局次長 (穴吹給食センター所長事務取扱)
藤本教育総務課長
竹内教育指導監
小倉教育総務課主幹
吉田企画総務部長
藤本総務課長 (事務局長)
荒岡総務課課長補佐 (事務局)
- 4 欠席者 委員 三好 亘
南脇町幼稚園長
- 5 傍聴者 なし
- 6 日 程 開 会
市長あいさつ
議題
(1) 平成30年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について
(2) 教育費の平成31年度当初予算(案)について
(3) その他の件について
閉 会

吉田企画総務部長

企画総務部長の吉田でございます。
定刻となりましたので、ただいまより平成30年度美馬市総合教育会議を始めさせていただきます。総合教育会議に関する事務につきましては、初年度の平成27年度から昨年度まで教育委員会へ事務を委任し開催しておりましたが、本年度からは教育委員会への委任事務を廃止し、市長部局において事務を執り行うこととなりましたので、よろしくをお願いいたします。
なお、本日は三好委員さんが所用により欠席されておりますので、報告させていただきます。
それでは、開会にあたりまして、藤田市長より御挨拶を申し上げます。

藤田市長

みなさん、こんにちは。いつも大変お世話になっております。美馬市長の藤田元治でございます。まず今日は平成30年度美馬市総合教育会議を開催致しましたところ、委員の皆さまには、年度末も押し迫り、御多忙のところにも関わりませず、御出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆さま方には常日頃から美馬市教育行政の振興に御尽力を賜っておりますことに対しましても、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。
さて、平成30年度も残すところあと1か月余りとなりましたが、本年度を振り返りますと、4月には、美馬観光ビューローの発足やブルーヴィアあなぶきのリニューアルオープン、5月には地域交流センター「ミライズ」のグランドオープン、6月には道の駅「みまの里」がオープンし、大型プロジェクトが完了し、「一步先の確かな未来」の実現に向け、着実に歩を進めることができたと考えております。また、企業誘致関係では、5月に「株式会

藤田市長

社テレコメディアふるさとコールセンター」が事業を開始され、そして、大塚製薬株式会社の工場建屋も7月に完成し、2020年の操業に向けて着々と準備が進められております。そして11月には「大塚製薬 株式会社」との間で「健康増進に関する連携協定」を締結いたしました。また、その「協定」に基づき、「徳島ヴォルティス 株式会社」を加えた三者で「覚書」を締結し、Jリーグクラブで初となるヘルスケア分野の「ソーシャル・インパクト・ボンド」として、「美馬市版SIB ヴォルティス コンディショニング プログラム」に取り組むことといたしました。この取り組みを通じまして、「『美と健康』のまちづくり」を進めますとともに、「大塚製薬 株式会社」や「徳島ヴォルティス 株式会社」との関係が一層強固なものとなるよう、しっかりと取り組んでまいります。

さらに、12月には「近畿用品製造株式会社」の工場立地が決定をいたしました。家庭用品、日用品などプラスチック製品の製造工場です。若者から高齢者まで年齢を問わず、約100名を雇用し、平成31年12月を目途に操業を開始する予定とのことです。そして、本年4月には本市の幼保連携型認定こども園として3園目となる「穴吹認定こども園」の開園を予定しております。

来る平成31年度は、私が平成28年に市長に就任して以来、4年目を迎え、「総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も最終年度となることから、「仕上げの年度」となります。また、5月1日には新天皇陛下の即位式が執り行われ、年号が新しくなり、まさに時代の転換を迎える節目の年となることから、10年先、20年先をしっかりと見据え、「美馬市に住み続けたい」「美馬市に住んでみたい」と言われるような、選ばれるまちづくりのために、あらゆる施策に果敢に挑戦していく年にしてまいります。このような認識のもとで、先ほど申し上げましたまちづくりの基盤となる地域交流センター ミライズや道の駅「みまの里」等の効果を市民の皆様方に最大限実感いただけるよう、更なる工夫を重ねるとともに、次期「総合計画」を先取りする形で、

一つ「美と健康のまち 美馬」

二つ目「誰もが活躍できるまち 美馬」

三つ目「子どもを産み育てるなら 美馬」

四つ目「ヒト・モノ・カネを呼び込み、好循環するまち 美馬」

五つ目「安全・安心で快適に暮らし、誇れるまち 美馬」

の5つを政策の「柱」といたしまして、平成31年度当初予算を編成いたしました。

教育費につきましても、「子どもを産み育てるなら 美馬」を目指すため、平成32年度からの英語教育必修化に向けた「英語教育の充実」を本年度に継続して実施するとともに、国の「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に基づきまして、タブレットパソコン等の導入や平成32年度から小学校で必修化されますプログラミング教育に対応するための機器を購入するなどの予算を計上しております。これは「英語教育」と「学校ICT環境」の分野でも県内トップの実現は無論のこと、いずれは日本のトップに向けた序曲であり、「重点事業」として掲げたものでございます。これらの内容につきましても、後ほど議題のなかで詳細について御説明させていただきますので、皆様から御意見等を頂ければと存じます。

本市と致しましては、「まちづくりはひとづくり、ひとづくりの根幹は教育にあり」、これは普遍のものであり、今後とも教育委員会との連携のもとに、教育行政のなお一層の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくいたしまして、開会に当たりましてのあいさつとさせていただきます。

吉田企画総務部長

それでは、議題の方に移らせていただきます。

議事の進行につきましては、「美馬市総合教育会議設置要綱」第4条の規定によりまして、藤田市長をお願いいたします。

議長（藤田市長）

それでは、これより私の方で進行をさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

まず、議題（1）の「平成30年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について」事務局より説明をしてください。

事務局長（藤本総務課長）

それでは、議題（１）の「平成２９年度教育委員会所管の主要事業の実施状況について」それぞれの担当課から、説明をさせていただきます。まず、教育総務課から、続いて、地域学習推進課から、本年度実施いたしました特徴的な事業の概要について説明させていただきます。

藤本教育総務課長

それでは教育総務課からお願いいたします。お手元の資料「平成３０年度教育委員会所管主要事業の実施状況について」を御覧ください。座って説明をさせていただきます。

まず１ページ、美馬市英語教育推進事業、０歳児から中学卒業までの一貫した英語教育の実現でございます。

事業目的といたしましては、グローバル化の進展に対応する人材育成に向けて、就学前教育、小・中学校教育において早期からの一貫した英語教育の推進が喫緊の課題でありますことから、「美馬市英語教育推進計画」に基づき、幼児、園児、児童、生徒の発達段階に応じた目標を設定し、その達成に向けて取り組むことといたしております。

事業の実施状況につきましては、平成３０年６月から外国語教育指導監を２名配置し、発達段階に応じた英語教育を進めています。特に、新学習指導要領を２年前倒しして行われている小学校での英語教育では、指導案の作成やＡＬＴとのＴ・Ｔ指導につきまして、教員に対する支援を行い、児童は、デジタル教材やＡＬＴによる効果的な学習を楽しみながら進めております。また、中学校では、ＡＬＴを３名増員し、各学校へ１名を常駐配置いたしました。生徒達は、ＡＬＴと授業内外で自然に英語でコミュニケーションを取る機会が増え、学習への積極性や意欲の向上が図られております。就学前教育では、３歳から５歳児に対し日本人講師による英語活動となっておりましたが、平成３１年度からは、全て外国人講師による活動とすることを予定しております。

なお、小中学校及び、就学前施設において実施している美馬市英語教育推進事業について保護者や市民のみなさまへ理解を深めていただくための広報番組を作成いたしまして、昨日（２月１４日）から放送をいたしております。２０分弱の番組ですが、会議終了後に、視聴いただきたいと存じます。

２ページをお願いいたします。美馬市産米給食推進事業、県下一おいしい給食を目指して、でございます。

事業目的は、市内の学校給食センター給食において、美馬市産の美味しいブランド米を子どもたちに無償で提供し、地産地消を推進するとともに、食料費の充実によりまして学校給食全体の質の向上を進め、子どもたちに食による郷土への愛情を育て、心身の発達を図るものです。

事業内容といたしましては、毎月１回の統一献立の実施や全国学校給食甲子園への参加により、子どもたちに美味しいお米とバランスのよい美味しい給食を提供するため、創意工夫や地産地消に富んだ給食づくりを進めるとともに、アンケートや給食だよりによりまして、児童・生徒の食と健康への関心を高め、元気な学校生活を支える給食の実施に努めております。

アンケートにつきましては、別添として４ページに載せておりますので、御覧ください。

この給食に関するアンケートは美馬市内の学校給食センターで調理した給食と脇町地区中学校のデリバリー給食を食べている児童生徒を対象に、先月１月１８日に美馬市内の小学３年生と５年生及び中学２年生を対象に行いました。

各共同調理場や穴吹学校給食センター分は３２１名、デリバリー給食は１０４名の併せて、４２５名から回答をいただきました。

なお、つるぎ町を含む美馬西部学校給食センター組合が配食している美馬小学校・美馬中学校分はアンケート内容が一部異なることからこの集計には含まれておりません。また、パーセントは小数点以下を四捨五入したもので表記しています。

１は、給食への満足は、１とても満足と２満足が併せて７０％ですが、少し不満、不満が１５％となっております。

２は、美馬市が提供するお米については、１おいしい、２まあまあおいしいが併せて８３％、あまりおいしくない、おいしくないが３．５％となっております。

３は、給食を残している児童生徒は、ときどき残す、いつも残すが併せて３４％となり、３の２でその理由を聞いておりますが、給食を残す理由とい

たしましては、1 食べる時間が足りない、2 お腹がすいていない、3 苦手なものを残す、4 太りたくない、5 量が多いを理由として給食を残す子どもたちは、児童生徒数全体の20%あり、おいしくないやおいしくないを含む複数の理由をあげ、残す児童/生徒は、全体の14%となっています。

4は、今年度から取り組んでいる統一献立についての質問ですが、統一献立について知らないと答えた生徒も17%あり、次年度も丁寧に食材や献立の意味を伝えていきたいと思えます。

5は、統一献立の中で的人气メニューを聞きました。結果としては、1位がビーフカレーの日、2位がハンバーグのキノコソースがメインの日、3位がもぐもぐカミナリ井の日となっております。

大変申し訳ございません、誤植となっておりますが、次は6の間で、お米の市からの無償提供について知っているかの間ですが、知らないと答えている児童生徒が25%もあり、引き続き、美馬市産のお米のおいしさを伝える本事業について周知を図ってまいりたいと思えます。

最後の設問はこちらも7に訂正をお願いいたします。自由回答欄となっております、好きなメニューなどを自由に記載してもらいました。以上が美馬市の学校給食に関するアンケート結果でございます。児童生徒の率直な意見を参考として今後もおいしい給食作りを進めてまいります。

それでは、資料の2ページ下段へお戻りください。「美馬の子どもたちへ「本物の音楽」を」プロジェクト事業でございます。事業内容といたしましては、企業版ふるさと納税を活用し、本年度5月に開館した本格的音楽ホール「ミライズ 市民ホール」において、市内の小学校3年生から中学校3年生を対象としてクラシック・コンサートを開催しました。子どもたちは26人編制のオーケストラによる本物の音楽の臨場感を体験する貴重な機会を得ることができました。次年度も引き続き事業を実施いたしまして、来年度は対象を、低学年を含む小学生を中心として子どもたちと本物の音楽のふれあいを予定しております。

3ページの主な市内小中学校施設管理・整備関係事業をお願いいたします。1として、穴吹中学校トイレ改修事業は29年度からの繰越事業ですが、穴吹中学校のトイレの洋式化及びドライフロア化を実施しました。2として、江原中学校防球フェンス更新事業ですが、江原中学校グラウンドにおいて、野球ボールが外野フェンスを越えないようにするため、南側及び西側フェンスを既存フェンスより2メートル高くしました。3として、穴吹中学校屋内運動場照明更新事業で、故障が多くなっていた穴吹中学校の屋内運動場の照明設備をLED照明と交換し施設の長寿命化を図りました。4として指定避難所防災機能強化事業として、大阪府北部地震によるブロック塀倒壊事故を受けて、市内の学校等の施設において安全点検を行いました結果、4箇所ブロック塀等を撤去し、代替フェンスを設置する等安全対策を実施したものです。事業箇所は江原南小学校、脇町小学校、江原中学校、木屋平幼稚園です。

以上のような事業を行いました。今後も、子どもたちが安全にのびのびと学習に取り組める施設整備や円滑な管理に努めて参ります。

教育総務課からは以上でございます。

続いて、地域学習推進課から御説明いたします。座って説明をさせていただきます。

資料の5ページを御覧ください。まず社会教育関係といたしまして、1成人式ですが、平成31年1月2日水曜日に、今年から地域交流センターミライズ 市民ホールに場所を変えまして開催いたしました。287人中213人の出席がありました。

次に2 放課後子ども教室運営事業としまして、学校施設等を活動拠点とし、地域住民の参画のもと子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する放課後対策事業を実施しました。市内7小学校と、4つのスポーツクラブが運営しており、合計778人の参加がありました。

3の公民館及び教育集会所ブロック塀緊急安全対策事業ですが、事業内容は、大阪府北部地震によるブロック塀の倒壊を受け、通学路に隣接するなど、特に危険とされたブロック塀について、撤去・フェンス新設工事や補強工事を実施するものです。三島教育集会所ブロック塀撤去・フェンス新設工事は昨年10月6日竣工し、扨原教育集会所ブロック塀撤去・フェンス新設工

事につきましても昨年12月26日竣工しました。猪尻公民館西側ブロック壁の補強工事については平成31年2月28日までの工期で工事を行っています。

4 市立図書館運営事業については、指定管理者は株式会社図書館流通センターであり、平成29年度は開館日数289日、来館者数は24,459人、利用者数14,353人、貸出冊数100,103冊でありましたが、地域交流センター内に美馬市立図書館が5月12日に開館しました。その前段として地域交流センターの指定管理者は4月1日から「あなぶき・TRCグループ」となり、その内図書館部分については、引き続きTRCが運営しております。開館から平成31年1月までの約8か月間で、来館者数が10万人を突破しました。1月の7日に突破です。木屋平への移動図書館を月1回開始しており、カフェコーナーの新設もし、利用いただいているところです。

平成31年1月末の利用状況ですが、平成30年5月12日から平成31年1月31日までで、開館日数は213日、来館者106,692人、利用者は21,956人、貸出冊数は136,738冊となっております。脇町図書館が平均100人、今が500人で5倍、貸出し者は50人から倍の100人となっております。

5 人権教育として、人権指導者育成講座の開催をいたしました。指導者の育成を図るため、年4回の開催を予定しており、企業・各種団体等の参加者が受講しており、10月には、現地視察香川人権研究所を第2回の研修として実施しました。人権フェスティバルを平成31年2月17日、日曜日に実施します。こちらも地域交流センターミライ 市民ホールに会場を移行し開催することになります。更に、人権講演会を平成31年3月17日、日曜日に実施しますが、穴吹農村環境改善センター多目的ホールで、演題は「生きてるだけで丸もうけ～命の尊さ、思いやりの心～」という第で桑原 征平（くわばら・しょうへい）フリーアナウンサーを招いております。

次のページをお願いします。第14回美馬市文化祭を平成30年11月3日金曜日から11日日曜日まで実施しました。主要行事として、開会行事を三味線餅つき、脇町小学校「マーチングバンド」、芸能発表会、地産地消・美馬の農林産物フェアや芸術作品展示、これは11月3日から11日までです。その後11月23日には文化講演会を開催し、オープニングは美馬市連合婦人会の鼓笛隊による演奏で、「夢の実現 努力は裏切らない」として講師に宇津木妙子さんを招き、約400人の参加がありました。協賛事業として昨年9月18日から12月9日まで文化・芸能、スポーツ41行事を行いました。うだつアリーナからミライズに移転し開催しましたが、反省会を開催し、反省すべきところは反省し、来年度以降の運営について協議してまいります。

3 社会体育関係として、まず市体育協会は加盟団体数は22団体、会員数は1,391人です。総合型地域スポーツクラブは5団体あり、スポーツ少年団は12団体、191人で指導者数は68人です。第65回記念徳島駅伝が平成31年1月4日から6日にかけて行われましたが、総合成績は6位を死守いたしました。また、区間賞は2つありました。また、夏季合宿として8月17日から23日に、長野県富士見高原で、冬季合宿として12月22日から25日に四国三郎の郷で実施しております。

あと、第9回美馬駅伝・クロスカントリー大会を本文1月13日に開催し、例年がない好天のもと行われており、エントリー数は655人で当日参加者数は553人でした。内訳は市内288人、県内235人、県外12人、招待校3校で18人でした。社会体育施設の管理として、うだつアリーナ、穴吹スポーツセンター、美馬市民グラウンド、吉野川河畔ふれあい広場等の管理をしております。

7のうだつアリーナテニスコートの人工芝化事として、うだつアリーナの人工芝テニスコートは、中学校総体などを中心に、子どもから大人まで使用頻度の高い施設であるが、4面とも既に耐用年数を経過し、劣悪な状況のため、全面張り替えを行うものです。面積は2,453㎡で、工期は平成31年2月28日までで現在工事中です。今週人工芝が入りましたので来週には完成する見込みです。

次のページをお願いします。文化財関係として、指定文化財等ですが、国指定重要文化財は5つ、国選定重要伝統的建造物群保存地区は1つ、国登録有形文化財として28、県指定文化財が18、市指定文化財が59あります

西野地域学習推進課長

。指定文化財修理事業へ補助を行いました。平成30年度は、貞真寺山門・小星大師堂・三木家住宅の3件でした。

続きまして、伝統的建造物群保存対策事業としては、国選定重要伝統的建造物群保存地区内に所在する伝統的建造物群の保存修理に係る補助を行うもので、30年度は通常分での3件、災害復旧は正木家・5件で、修理事業を実施中です。

埋蔵文化財関係は埋蔵文化財包蔵地内の開発行為に伴う事前調査を平成31年1月末現在で14件行いました。

各種検討委員会の開催については、郡里廃寺跡整備事業検討委員会を昨年の5月と12月に開催し、来年度の基本構想策定に向けて協議しました。また、歴史資料館整備検討委員会を本年1月に開催し、来年度の整備に向けて協議を行っているところです。

最後に、明治150年記念特別展開催事業ですが、明治150年の節目に、郷土の偉人を紹介することで、文化芸術に触れる機会の充実を図りました。期間は昨年9月29日から10月28日に美馬市立図書館内で三宅速、岡本監輔などの資料展示を行ったものです。

私からは以上です。

議長（藤田市長）

それでは、議題1について、それぞれ説明がございましたが、何か御意見等がございましたら、お願い致します。よろしいでしょうか。

（意見なし）

議長（藤田市長）

はい。それでは、次に議題2の「教育費の平成31年度当初予算（案）について」事務局から説明してください。

大泉副教育長

「教育費の平成31年度当初予算案について」座って説明させていただきます。資料の11ページを御覧いただけたらと思います。こちらの表は、平成31年度当初予算のうちの教育関係予算の概要を記載したものでございます。この表につきましては、左から右に向かって、「予算の『項』と『目』の区分」、予算額の「31年度の額」と「30年度の額」、「比較」、「財源内訳」となっておりまして、「説明」欄には、「目」ごとの主な事業について、記載を致しております。

それでは、この表の中で、主な内容について説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

まず、「教育総務費」の下段の「事務局費」でございます。

先ほどの、市長のごあいさつの中でも、5つの政策の柱のうち、その柱の1つであります、「子どもを産み、育てるなら美馬」の実現をめざすための重点事業として、「英語教育の充実」と、「学校ICT環境の充実」の2つを掲げ、これらについて、県内トップクラスを実現するために、予算計上することについて、触れておられました。

1つ目の、「英語教育の充実」と致しましては、「学習指導要領」の改訂に伴いまして、平成32年度から、英語が、小学校5・6年生で、正式な教科となりますことから、本市におきましては、「美馬市英語教育推進計画」に基づき、平成30年度から、前倒しをして、授業時間を確保するとともに、小学校の教員の指導力の向上を図っているところであります。具体的には、市内の小学校で、英語教育の支援を行っております、「外国語活動支援講師」の2人、ブライアン・ハントレス、マイケル・リスカに加えまして、平成29年度から新たに配置しております「外国語教育指導監」につきましては、30年度からは、1人増員し、現在2人、配置をしているところでございます。

平成31年度につきましても、引き続き、2人ずつ、配置をいたしまして、英語教育を行います小学校の教員を指導し、支援していくこととしております。

2つ目の、「学校ICT環境の充実」につきましては、この後、「小学校費」と「中学校費」のそれぞれの「学校管理費」でもご説明しますが、平成31年度には、各小・中学校に、タブレット・パソコン機器などを導入することとしておりまして、導入した機器類を、効果的に使えるよう教員を支援するために、30年度には配置をしていなかった「ICT教育支援員」及び「ICT支援員」といった臨時職員を1人ずつ、配置する予算につきまして

も「事務局費」で計上しております。

なお、30年度の予算額と比較して、「120万円」余りの増額となった主な要因は、ただ今の「ICT教育支援員」及び「ICT支援員」を配置することなどによるものでございます。

次に、「小学校費」でございます。上段の「学校管理費」につきましては、主に市内の小学校の管理運営費でありまして、また、下段に「教育用コンピュータ借上料等」とありますのは、先ほどの「学校ICT環境の充実」を図るため、国の進める「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に基づきまして、「タブレット・パソコン」を児童3人に1台の割合を下回らない台数を導入するほか、「スライド式電子黒板」の導入や、各普通教室において、無線でインターネットが利用できるようにWi-Fi環境を整備するものであります。

さらに、小学校では、平成32年度から必修化されます「プログラミング教育」に対応するための学習用教材を購入することとしております。なお、小学校の「ICT環境の充実」を図るための事業費は、「4千464万9千円」でございます。30年度の予算額と比較して、「1千900万円」余りが増額となった主な要因は、この事業費の計上によるものでございます。

次に、下段の「教育振興費」につきましては、「説明」欄にございます「スクールバス等運行事業」と「要保護及び準要保護児童 就学援助費」が主なものでございます。事業費につきましては、「スクールバス等運行事業」が、タクシーの通学支援も含めまして、「3千783万9千円」これはスクールバス運行委託が32,215千円、タクシー通学支援5,624千円です。「要保護及び準要保護児童就学援助費」が、「2千63万6千円」、となっております。この2千63万円余りの就学援助費の中には、平成31年度から新たに実施いたします「特別支援教育 就学奨励事業」の「185万6千円」も含まれております。なお、「特別支援教育 就学奨励事業」は、「中学校費」においても、予算計上をしております。この事業の内容と致しましては、関係法令に規定する障がいの程度に該当する児童・生徒の保護者、又は「特別支援学級」に就学する児童・生徒の保護者に対し、国の補助金(1/2)を活用して、奨励金を支給する事業でございます。また、30年度の予算額と比較して、「743万円」余りの減額となった主な要因は、タクシー通学支援に係る路線数の減少などでございます。

次に、「中学校費」でございます。最初に、「学校管理費」は、主に市内小学校の管理運営費であります。下段に「教育用コンピュータ借上料等」とありますのは、「小学校費」においても、ご説明いたしましたように、「タブレット・パソコン」を生徒3人に1台の割合を下回らない台数を導入するほか、「スライド式電子黒板」の導入や、各普通教室において、無線でインターネットが利用できるようにWi-Fi環境を整備するものであります。

また、中学校におきましては、国の進める「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」に伴う整備分とは別に、各中学校のパソコン教室に整備しておりました既存のパソコンが更新時期を迎えますことから、これを入れ替えるためのパソコンの借上料につきましても、含んでおります。なお、中学校の「ICT環境の充実」を図るための事業費は、「3千582万円」でございます。30年度の予算額と比較して、「3千万円」余りが増額となった主な要因は、この事業費の計上によるものでございます。

次の「教育振興費」につきましては、「スクールバス等運行事業」及び「要保護及び準要保護生徒 就学援助費」が主なものでございます。事業費につきましては、「スクールバス等運行事業」が、タクシーの通学支援も含めまして、1千856万7千円、内訳はスクールバス運行委託257万1千円、タクシー通学支援1千599万6千円です。また、「要保護及び準要保護生徒就学援助費」が、1千928万2千円となっております。なお、この「1千900万円」余りの就学援助費には、小学校費と同様に、「特別支援教育 就学奨励事業」の「188万8千円」も含まれております。

また、現在、「美馬中学校」と「脇町中学校」に1人ずつ、合わせて2人を配置しております「部活動指導員」につきましても、予定では、「脇町中学校」のバレーボールに新たに1人配置することとして

しております。31年度は、1人増員して3人分の予算を計上しております。30年度の予算額と比較して、「490万円」余りの増額となった主な要因は、小学校とは対照的に、タクシー通学支援に係る路線数の増加

などでございます。

次の「外国青年招致事業費」でございます。「外国語指導助手」、いわゆる「ALT」は、平成30年度の8月から、それまでの4人から、3人増やしまして、現在は、7人体制となっております。31年度も、引き続き7人体制によりまして、「英語教育の充実」を図るものでございまして、この事業につきましても、「英語教育の充実」を図るためのものであります。

表の最下段の、「幼稚園費」でございます。「穴吹認定こども園」の設置に伴いまして、「三島幼稚園」及び「穴吹幼稚園」が廃園となりますことから、管理運営費については、職員の人件費などの経費が減額しております。また、「説明」欄の下段の「一時預かり事業」、いわゆる「預かり保育事業」につきましても、30年度は、「江原北」、「脇町」、「岩倉」、「三島」、「穴吹」の5つの幼稚園で実施しておりましたが、「三島」と「穴吹」の2つの幼稚園の廃園に伴い、31年度は、「江原北」、「脇町」、「岩倉」の3幼稚園での実施となっております。

30年度の予算額と比較して、「3千400万円」余りの減額となった主な要因は、幼稚園数の減少に伴う、職員数の減少などでございます。なお、廃園する2つの幼稚園施設につきましても、31年度に解体撤去する予定でございまして、当初予算では、当該工事に係る近隣家屋の事前調査や工事設計といった業務委託の経費を計上しております。

12ページをお開き願います。次に、「社会教育費」でございます。

最初に、「社会教育総務費」でございます。小学校などにおける、子どもたちの放課後対策として、実施を致しております、「放課後子どもプラン事業」、それと、各中学校区におきまして、地域ぐるみで、学校運営を支援するために、取り組んで頂いております、「学校支援地域本部事業」などが、主なものでございます。これらの事業ほか、文化祭や成人式についても、この費目において、予算計上してございまして、30年度と同様、31年度も、「地域交流センター ミライズ」での開催を予定しております。文化祭として350万円、成人式139万2千円です。

次に、「図書館費」でございます。昨年5月に「地域交流センター ミライズ」内に開館いたしました市立図書館の維持管理に係る費用のほか、指定管理料などの必要経費を計上しております。30年度の予算額と比較して、「250万円」余りの増額となっておりますのは、現在、市立図書館において使用しておりますシステムの端末機器を更新することが、主な要因であります。

次の「文化財保護費」から「青少年育成センター費」までにつきましては、それぞれ記載のとおりでございます。

次に、「保健体育費」でございます。最初に、「保健体育総務費」につきましても、「美馬駅伝・クロスカントリー大会 実行委員会 補助金」や「徳島駅伝 選手育成事業 補助金」など、各種のスポーツ振興に係る経費を計上しております。

次の「体育施設費」につきましても、市内体育施設の管理運営費が、主なものでございまして、「説明」欄の下段の「うだつアリーナ トレーニングルーム備品購入」は、トレーニングルームの利用者の増加に伴い、機器の台数の不足などの問題が生じておりますので、トレーニング用の機器を整備するものであります。この備品購入は、先ほどの「保健体育総務費」で申し上げた「美馬駅伝・クロスカントリー大会」の開催事業とともに、財源には、「スポーツ振興くじ助成金」、いわゆる、「toto助成金」を活用することとしてございまして、これら2つの事業費の「1千万円」余りのうち、「toto助成金」として「900万円」余りを充当する予定であります。

また、これら2つの事業は、先ほどの市長のごあいさつの中で触れられました、5つの政策の柱の1つであります「美と健康のまち 美馬」をめざしまして、実施するものでございます。30年度の予算額と比較して、「3千800万円」余りの減額となっておりますのは、30年度の予算に計上してございました、「うだつアリーナのテニスコートの工事」の経費を、31年度の予算では、計上をしていないことが、主な要因でございます。

次の「学校給食費」につきましても、「穴吹学校給食センター」と、脇町地区の3つの「共同調理場」の管理運営費、また、脇町地区の中学校を対象と致しました「デリバリー給食」に係る経費などを見込んだものとなっております。「美馬西部学校給食センター組合」の解散に伴い、平成31年度からは、「美馬中学校」及び「美馬小学校」の給食は、「穴吹学校給食センタ

大泉副教育長

一」から提供することとなっております。これに伴う食数の増加に対応するための施設の改修等の整備は、平成30年度で完了したところでありまして、このことが、30年度の予算額と比較して、「1億2千200万円」余りの減額となった主な要因でございます。

なお、食育及び地産地消の推進、給食の質の向上を図るために、おいしい美馬市産のお米を購入して、各調理場に支給しております「美馬市産米給食推進事業」は、引き続き実施することとしており、31年度には、「美馬小学校」及び「美馬中学校」の分が、新たに加わりますので、これで、市内のすべての子どもたちに、美馬市産のおいしいお米を提供することができるようになります。

以上、教育費の総額といたしましては、表の最下段の「計」欄のとおり、31年度の予算額は、「13億1千280万2千円」となっておりまして、前年度よりも、「1億3千816万8千円」の減額となっております。

以上、簡単ではございますが、平成31年度当初予算案の説明とさせていただきます。 よろしくお願ひ致します。

議長（藤田市長）

議題2の「教育費の平成31年度当初予算（案）」について、何か御意見等がございましたら、お願ひ致します。よろしいでしょうか。

（意見なし）

議長（藤田市長）

それでは、議題2の「教育費の平成31年度当初予算（案）」につきましては、今月26日開会の平成31年3月美馬市議会定例会に提案し、議会の審議を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。次に「その他の件」について、何か委員の皆様からございましたら、お願ひいたします。

村岡教育長

市長、教育長。

議長（藤田市長）

どうぞ。

村岡教育長

就学前教育・保育の推進計画の策定についてお願ひがございました。座ったままで失礼をいたします。

本市の就学前教育・保育につきましては、市長のご挨拶にもありましたとおり、4月には、3園目となる幼保連携型認定こども園である穴吹認定こども園が開園いたします。このことに伴い、三島幼稚園と穴吹幼稚園は今年度末をもって閉園することとなり、美馬市立の幼稚園は、江原北・脇町・岩倉・木屋平の4園となります。美馬市合併直後には、17の幼稚園、6つの保育所でスタートした本市の就学前教育・保育施設ですが、少子化の進行や共働き世帯の増加に伴う保育ニーズの増大など、子どもや子育てを取り巻く環境が大きく変わってきており、今後、女性の社会進出の増加や就業構造の変化によって、幼稚園・こども園に期待される役割がますます重要になってくるものと思われまます。既に、本市におきましては、幼稚園、保育所型認定こども園、幼保連携型認定こども園という3つの異なる形態ではあっても、各地域や園の特性を生かして、子どもたちの豊かな個性を伸ばし、地域社会の一員として美馬市の未来を担う人材の育成を目指して、園長をはじめ、職員にご尽力をいただいているところでございます。

「三つ子の魂百まで」と言われるように、人の一生において、幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。今年度から実施されている新しい新教育要領には、将来小中高の教育へつながることを見通した教育活動の在り方について記されており、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化されています。

子どもたちの「生涯にわたる人格形成の基礎を培う」という重要な役割はもちろんのこと、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校での学びを念頭に置きながら、新しい教育要領に基づき、教育内容の更なる充実、保育の質の一層の向上に努めたいと思っております。

今後、これまで各園や保育所で積み上げてきた取組を更に充実・発展させ、「どの形態の中にあっても、同様の教育内容や保育の質を確保する」とともに、「就学前教育・保育の在り方を教育・福祉部門で共有する」ことによって、市民の皆様に関わりやすく、子育てしやすい環境を整えたいと考えて

います。

このようなことから、改めて、保育・教育現場において取組の共有化を図り、保護者や地域の皆様にもお示しできる推進計画をまとめてまいりたいと考えております。

先程の市長さんのご挨拶の中にも「子どもを産み育てるなら美馬」、「まちづくりは人づくり、人づくりは教育である」とおっしゃっていただいております。

「国家100年の計は教育にある」とも言われます。長期的な視点に立って、美馬市の宝をしっかりと育てたいと考えておりますので、市長部局におかれましても、御理解と御協力をいただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

議長（藤田市長）

推進計画を作る。いかがですか。

近藤陽子委員

幼児教育について国の方向性に基づいた県市の方向について取り組みことに私も個人的に感謝しております。市長は施設計画に基づいて環境面の整備をしていただいています。これからは中身の問題、どういう風に保育者は計画性をもって、新しい時代を生きていく。子どもを育てるという指名をもってどう取り組むかが課題です。美馬市は就学前教育の重要性をもって取り組んでいただいています。県内でも早く、美馬市は良いと言っておりました。美馬市の取り組みが県内の模範となり期待されていると聞きました。外部評価は置いておいて、市の幼児教育の方向性をしっかりと策定していただけるということで期待を持っております。

議長（藤田市長）

ありがとうございました。他にありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、他に御意見がなければ、以上をもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。慎重な御審議を賜りまして、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

（午後1時50分終了）

（会議終了後、就学前施設において実施している美馬市英語教育推進事業についての広報番組をDVDで20分程度視聴した。）

（最終 17時5分終了）